

特 集／あさひ保育園の運営委託
町政スポット／平成 23 年度デマンドタクシー運行計画、
宮宿小屋内運動場改修工事、町生涯学習推進大会 ほか
まちの話題／JTB 東北 観光地クリーンアップキャンペーン 2010、
カフェ蔵 ミニワインパーティー「ワイン物語」 ほか

卒業間近 感謝の気持ちを込め握手を交わす

(3月8日／西五百川小 6 年生を送る会)

※ 11 頁に関連記事

広報

2011 年 3 月号 No. 652

あさひまち

特 集

保育内容はそのまま維持 あさひ保育園の運営委託



町は4月1日から「社会福祉法人あさひ会（加藤正理事長）」に、あさひ保育園、子育て支援センターあさひ、放課後児童クラブの運営を委託します。

民営化の理由その①

「柔軟な組織への改編」

委託を進める理由は大きく分けて2つあります。

一つは多様化する保育需要に因應するため、組織体制を柔軟にすることです。現組織の勤務形態は、町職員、

つまり公務員の就業規程を基本としているため、多くの制約があります。

休日や夜間の保育など、今後新たなサービスを展開していくには、民間型の組織に改めた方が対応しやすくなります。

民営化の理由その②

「身分・待遇面の改善」

もう一つは、職員の身分・待遇面を良くし、保育の質を高めることです。

近年の臨時職員は担任を

持つなど負担が増大傾向にありました。しかし臨時職員は法的に勤務時間に制約があり、雇用も1年単位。また年齢や勤務年数に関係なく、同一賃金の支給のため、不安定な身分になっていました。

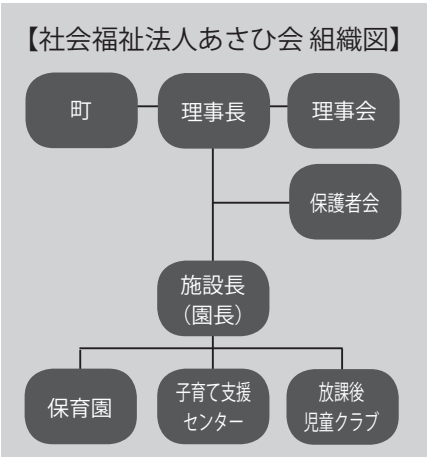
どんな仕事にも共通することですが、業務の多様化・複雑化が進む半面、待遇面が変わらないという状況では仕事に対する意欲が高まりません。保育の質を高めるうえでも、身分・待遇面の改善は重要なのです。

社会福祉法人あさひ会の概要です

組織体系と運営施設

理事会

職員構成（予定）



役職名	氏 名	地区名
理事長	加藤 正	夏草
施設長（園長）	五十嵐 勉	中沢
理事	小林 秀子	西町
	登坂ひかる	八ッ沼
	岡崎 文彦	大町
	鈴木 直幸	大谷五
	成原 哲也	新宿
監事	柴田七郎兵衛	大町
	鈴木 高光	緑町

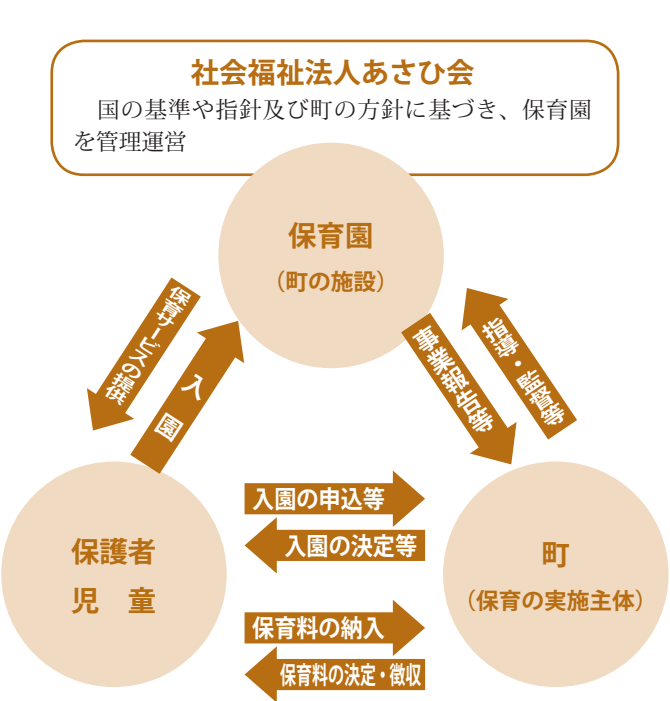
職員区分	職	人数
法人	施設長（園長）	1人
	保育士	16人
	看護師	1人
	事務員	1人
町職員	保育士	9人
	調理師	2人
法人 臨時職員	保育助手	4人
	調理助手	2人
	運転手	2人

「社会福祉法人あさひ会」とは

社会福祉法人あさひ会は、保育園の運営委託を目的に今年3月1日付で新たに認可されました。

法人の組織は、理事が7人、監事が2人。児童福祉や教育分野などの委員会や審議会で、「委員」の経験をお持ちの方々が中心で、任期は2年です。

理事長（非常勤）には、西川町出身で、民間企業への勤務や千葉県内で小学校校長を務めた経験を持つ加藤正さん（夏草／67歳）が就任。また、3施設の施設長（園長）を務めるのは五十嵐勉さん（中沢／60歳）で、子どもたちや施設の安全管理にあたるほか、常勤職員の長として職員のマネジメントにあたり、保育士が保育に集中できる環境を整えます。



運営の最終責任は町のまま

運営が法人に代わっても、保育方針はあくまで町が定めます。延長保育や土曜保育などは継続して実施するほか、行事についても原則として継承され、現在の保育内容が維持されます。

保護者と町、そして法人の関係は左図のとおり。保育料の算定・徴収を含め、三者が協議の上決定します。

運営の最終責任はこれまで同様町にあり、両者が連携を取りながら責任を持って子どもたちの保育にあたります。

職員は昨年以降行われた試験により採用された保育士等が配置されますが、保育の継続性や園児・保護者との信頼関係を考慮し、町職員を派遣します。派遣期間は、町・法人・保護者の三者が協議の上決定します。

■「子どもの成長を一緒に喜べる施設に」加藤理事長

―理事長就任の抱負を一言。

「子どもの成長を保護者と一緒に喜べる施設にしたいと思っています。多くの職員が町営体制から引き続き採用されていますので、まずは保護者の皆さんとの信頼関係を大切にしたいと思います」

―千葉県から転入されたそうですが…

「そうです。転入して約10年になります。でも実は実家は隣の西川町。Uターンする際、西川町も候補でしたが、当時の町職員の方がとてもいい対応をしてくれて、町全体から温もりを感じました。」

朝日町にはこうした人の温かさのほか、自然と伝統行事があり、三者がうまく調和していると感じます。こうした良い点をしっかり伝えていきたいと思っています」

―町の子どもの印象は？

『素直さ』が印象的です。3年間携わった『ドキドキ探検隊』の活動で感じました。

私なりの分析ですが、この理由は、3世代同居の家庭が多かったり、祖父母が近くに住んでいたりすることが大きいと思います。祖父母の方々の愛情が注がれているというか…。両親だけではできないしつけや教育が、きちんと行き届いているんでしょうね」

―どんな保育園を目指しますか？

『三つ子の魂百まで』のこゝろに代表されるように、人間にとって乳幼児期は人格形成に大きな割合を占める時期です。日常の保育はもちろん、自然や文化などに触れる機会を大切にし、感受性豊かな子どもに育つよう保育園の運営を心がけたいと思います」

―趣味を教えてください。

「野菜作りですね。趣味と云うか、もはや生活の一部。収穫した農作物を近所の方に差し上げることもあります。都会から来た自分だけに、笑われることもあるんですよ。」

そのほか町の文芸サークル『たむしば』にも参加しています。将来的には『自分史』を作ってみたいと思っています」

―座右の銘や「モットー」があれば教えてください。

『汗して働くこと』ですね。貧しい農家に生まれたせいか、幼い頃から親の手伝いをしながら育ってきたことが由来だと思っています。働くことで社会の様子が変わりますし、他の人々や地域とのかかわり合いも生まれます。こう見えてもシルバー人材センターの会員として、草刈りなどに活動しているんですよ(笑)」

【左】社会福祉法人あさひ会 理事長 加藤正さん(夏草)
昭和18年西川町生まれ。民間企業に勤務しながら夜間大学で小学校教員免許を取得。千葉県内の小学校や教育委員会に勤務し、平成13年3月退職。同年4月に朝日町に移住し、現在は町社会教育委員会委員、町教育振興計画策定委員などを務める。67歳。

【右】同 施設長(園長) 五十嵐勉さん(中沢)
昭和25年朝日町生まれ。高校を卒業後約37年間、山形県信用農業協同組合連合会などに勤務し、平成20年1月をもって退職。同年10月から人権擁護委員を務める。60歳。



町保育の新たな舵取り役 理事長・施設長に聞く

「組織を円滑に動かすことが役割」五十嵐施設長（園長）

―常勤職員として、施設運営の最前線に立つことになりましたね。

「園児と施設の安全管理はもちろん、町の保育方針や理事長の考えに沿って組織を円滑に動かすのが私の役割と考えています。」

あさひ保育園は、町の幼児のほとんどが集う施設。町の将来を担う子どもたちが元気に毎日を過ごせるよう調整役を務めたいと思います。まずは約200人の園児の名前を覚えることが第一ですね（笑）

―女性が中心の職場ですが

「サラーマン時代も女性が多い職場でしたので、特に意識はしていません。男性、女性にかかわらず、すべての職員が素直に自分を出し、それぞれが持つ能力を十分に発揮できるような職場にしたいと思います」

―目指す「園長」像は？

「園長とは言え、とにかく園児とのふれあいが大切。できるだけ子どもたちと一緒に過ごしていきたいと思っています。」

と言うのも、私はサラーマン時代、毎日午後9時頃に帰宅する日々を送っていました。その分、帰宅後や休みの日は子どもと遊ぶ時間を大切にしていました。本気で子どもにかかわると、子どもたちの反応がまるで違いました。大人が本気でかわった分だけ、子どもたちはいろいろなものを吸収し、成長してくれるものと信じています」

―お父さん（五十嵐豊田さん）は町の教育委員を務めましたね。

「父を教育委員として特別に意識したことはありません。ただ、仕事の帰りが遅かった分、子育ては父母に大きく頼っ

たのも事実。子育ての先輩として、当時は父の背中からいろいろと学んだように思います」

―趣味を教えてください。

「基本的にはいろんなことに挑戦するタイプですが、あえて挙げるとすれば、海釣りでしょうか。」

最上川が自宅のすぐそばを流れているせいか、若い頃から川遊びや釣りが大好きでした。社会人になって以降は海に行くようになり、今でも年に5回ほど、2人の息子たちと出かけています」

―座右の銘や「モットー」があれば教えてください。

『思いやりの心を大切にすること』です。園児に対しても職員についても、この心を大切にして運営にあたりたいと思います」

【写真】社会福祉法人あさひ会に運営が委託される3施設
あさひ保育園（左／3歳未満児クラス）、放課後児童クラブ（左下）、
子育て支援センターあさひ（下）



① 運行エリアが拡大

② 宮宿発11時15分の便を新設

③ 一日乗車券を新たに発行

町は、昨年4月導入したデマンドタクシーのさらなる利便性の向上を図るため、運行エリアの拡大や運行本数の増便などを盛り込んだ平成23年度の運行計画をこのほどまとめました。

新規・変更など計画の主なポイントは3つ。

一つ目は運行エリアが拡大され、町内全域になったこと。これまでのエリアに加え、和合地区、北部地区での運行が可能となりました。

ただし、山交バスの運行区域との関係で、拡大されたエリアの中で新たに利用できないのは、平、舟渡の一部（町道栗木沢・真中線の沿線から遠い区域）、川通、大暮山、大沼区にお住まいの方のみとなりますのでご了承ください。

平成23年度 デマンドタクシー 運行計画

二つ目は下りの便（宮宿発各地区行）に11時15分発の便を新たに設けること。主に通院帰りの方の利便性を高めるため増便するものです。

三つ目は、1日乗車券（1,000円）を新たに発行すること。これを利用すれば、1日で複数の場所への移動がお得になります。その他については、今年度の運行内容と同じ。詳しくは、以下のとおりですのでご確認ください。

▼問合せ先

政策推進課地域振興係

☎67・2112

平成23年度デマンドタクシー運行計画

【運行日】

月曜日から金曜日。土日、祝日及び年末年始（12月31日～1月3日）は運休。

【運行エリア】

町内全域（ただし利用者に一部制限あり）

【運行時刻】

	上り（各地区発宮宿行）	下り（宮宿発各地区行）
1 番便	午前8時（※）	午前9時
2 番便	午前9時30分	午前11時15分（新）
3 番便	午後1時	午後0時15分
4 番便	午後3時	午後2時30分
5 番便	午後4時45分	午後4時

※平、舟渡、川通、大暮山、大沼地区発の1番便は7時30分になります。

【利用料金】

全区間1回につき400円。ただし、小中学生および障害者手帳所持の方は200円。幼児は無料。回数券（12枚綴り）は4,000円。1日券は1,000円。

【利用はお電話で】

利用するには、運行時刻の30分前まで電話による予約が必要です。ただし、宮宿行1番便は前日（平日）の午後6時まで予約をお願いします。

なお、利用にあたっては予約や配車をスムーズに行うため、住所・氏名等の事前登録をお願いいたします（登録は無料）。

【予約・問合せ先】

デマンド予約センター ☎67-2173

受付は平日の午前7時30分から午後6時まで



活発な意見が飛び交ったグループ学習

危険予知トレーニングで事故を予防

町子ども会育成連絡協議会・西村山地区子ども会育成会連合会「KYT研修会」

朝日町子ども会育成連絡協議会と西村山地区子ども会育成会連合会合同による、「KYT研修会」が3月6日創遊館で行われ、約60人が受講しました。

「KYT」とは、「危険予知トレーニング」の略称。工場や工事現場などでは誰もが念頭に置くもので、安全に仕事をする上でとても重要な事柄です。

今回はイラストを使い、子ども会行事を行う上での危険な行為や危険箇所を洗い出し、それに対する対処法をグループごとに学習。各グループでは活発な意見が飛び交い、それぞれ発表しました。

総括として「全体を見守る指導

員（育成員）の目が重要」とまとめる講師の言葉に大きくうなずく受講者。受講後の感想では「とても勉強になりました。新年度の活動に活かしていきたいです」との声が上がっていました。



このほど建て替えられた前田沢コミュニティセンター

前田沢コミュニティセンターが完成

区民ら 60 人が落成を盛大に祝う

老朽化に伴い、建て替え工事が進められていた前田沢区（村山正一区長）のコミュニティセンターがこのほど完成し、3月6日落成式が盛大に行われました。

新施設は木造平屋建てで、延べ床面積は約160㎡（約48坪）。40畳の大集会室と10畳の小会議室、調理室、倉庫が設けられているほか、建物全体がバリアフリー構造でお年寄りや体の不自由な方にも優しい造りとなっています。総事業費は3139万円で、国の「コミュニティ助成事業」の補助を受けています。

60人が出席した落成祝賀会では、関係者のあいさつのあと、区

民有志が祝舞として、獅子舞と大黒舞を披露。出席者の一人は「2階への上り下りがなくなり安心して利用できます。今後いろいろな地域活動で利用したいと思います」と話していました。

松尾亮蔵さんに東北管区警察局長表彰 少年の非行防止活動等に尽力



少年補導員の松尾亮蔵さん（松原）がこのほど東北管区警察局長表彰を受賞しました。少年補導員とは、地域における少年の非行及び犯罪被害防止を図るため、都道府県の警察本部長が委嘱するものです。街頭啓発やパトロールにあたるなど、

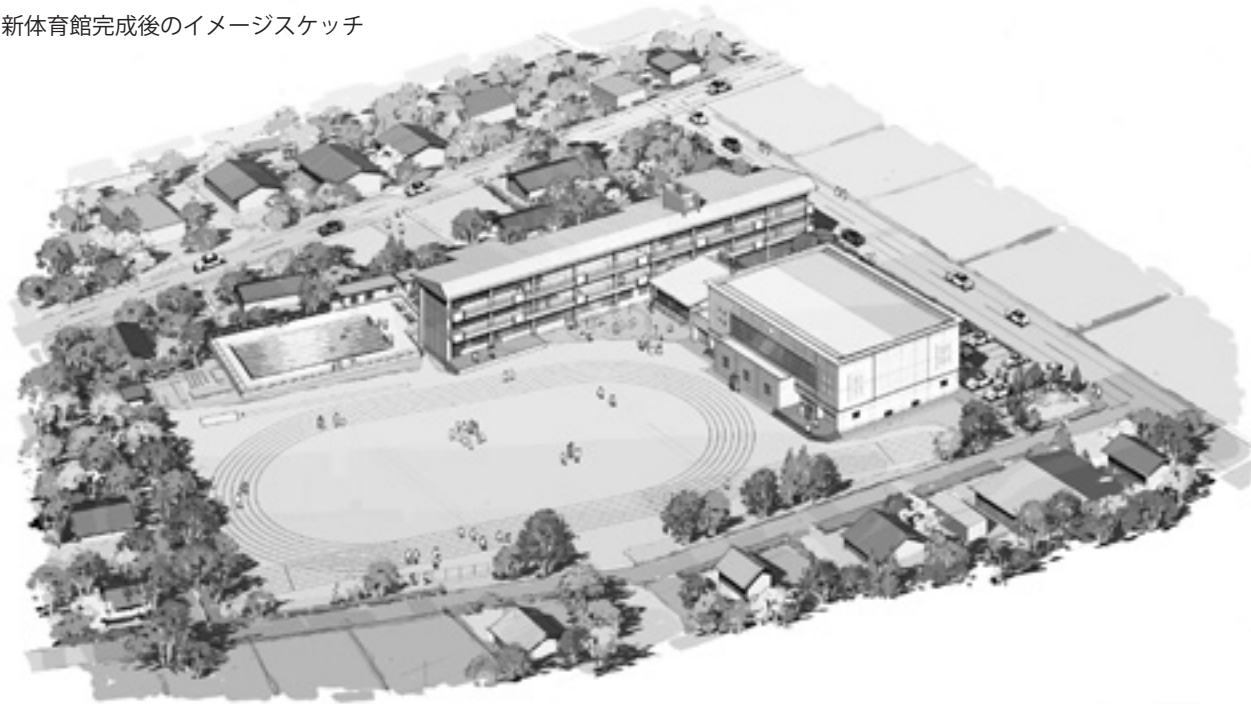
少年の非行防止活動等に尽力されたことが認められました。

なお町青少年指導センター指導委員の阿部勝男さん（西町）、多田孝雄さん（本町）には、県青少年補導連絡協議会長から長年の活動に対し感謝状が贈られました。

来年2月の完成に向け工事を発注

宮宿小学校屋内運動場（体育館）改修工事

新体育館完成後のイメージスケッチ



昭和31年の建設から50年以上が経過し、老朽化のため改築計画が進められている宮宿小学校体育館について、このほど最終設計案がまとまり、工事が発注されました。

その概要を見ると、主体構造は鉄筋コンクリート一部鉄骨造の平屋建てで、延べ床面積は現在の約2倍となる1197㎡。大谷小学校の体育館とほぼ同じ大きさで、アリーナにはバスケットボール、バレーボール、剣道、バドミントン用の設備やコートが設けられているほか、遠赤外線型の暖房機が設置され、冬期間やスポーツ少年団等が活動する夜間でも利用しやすくなっています。

工事を請け負うのは小野建設株式会社（山形市）と大東建設株式会社（朝日町）による工事共同企業体。3月1日に行われた入札で工事を落札したもので、同8日に契約を交わしました。事業費は約4億円を見込んでいますが、国の「安全安心な学校づくり交付金」により約25%をまかないます。

今回の工事では体育館の建設のほか、駐車場の整備と遊具の設置（移動）、グラウンド及び浄化槽の改修なども予定。今後は4月7日の入学式終了後に体育館が解体され、工事を開始。その後、平成24年2月の完成をめざします。

第23回朝日町生涯学習推進大会

3団体が活動成果を発表、最上一平氏がふるさとへの思いを語る

町内の様々な団体が一年間の活動の成果を発表する「町生涯学習推進大会」が2月27日、創遊館を会場に開催されました。

いのまちづくりプロジェクト「ぼかぼかの会」「常盤楯山を整備する会」の3団体がそれぞれ活動の成果等を発表。

各地区の公民館関係者など約380人が参加。活動事例発表や講演を通じて、魅力ある生涯学習や特色ある地域づくりについて学びました。

その後、優れた児童文学作品に贈られる「ひろすけ童話賞」を昨年受賞した町出身の童話作家、最上一平さんが受賞記念講演を行いました。

今年、「女性文化教室 初心者のための大正琴教室」、人材育成事業助け合

最上さんは受賞作の「じぶんの木」の朗読などとおし、これまで発表した作品に込めた思いを様々なエピソードで紹介。「朝日町の風景は何かを語りかけているように感じるんです」と話し、ふるさとの風景が多くの作品の源になっていることを伝え、



3年間の取り組みについて発表を行う「常盤楯山を整備する会」の佐竹昇代表



講演する最上一平さん

現在も大沼で体験した出来事を元にした作品を執筆していることを明かしてくれました。

休憩時間には、町を紹介する本として昨年町内全世帯に配布された「朝日町宝物がたり」を利用した〇×クイズ大会も開催。「平成17年に開通した明鏡橋は通算7代目？」など3問が出題され、町に関するちよつとした知識も学びました。

ホームページに写真

連載企画

なりわい
業

を創る

「都市と農山村が互いの生活を支え合う関係」の構築を掲げ、仙台圏との交流を進める「朝日町産業創造推進機構」の取り組みを連載で紹介し



町雇用創造協議会が今年1月から事務所を置く旧送橋小学校

商品開発の拠点を旧送橋小に設置

地元の素材を使った新たな商品開発を進めることで、町内に「小さな企業」を数多く派生させることが町内における安定した雇用創出の場につながります。

商品開発を本格的に進めていくために朝日町雇用創造協議会（代表1町長）では、昨年の12月から5人の商品開発員を採用。商品開発チーフを筆頭に、生態系を活用した安心安全な農畜産物の開発、そしてその素材を活用した加工食品の開発を進めています。

中でも、当協議会の最重要プロジェクトである放牧豚

については、冬期間における朝日町独自の飼育試験が終了。生肉を町内の飲食店関係者からモニターとして使ってもらい、使ってみての感想や意見をいただくことにしています。ミネラル分を多く含むだボカシ肥料も試験製造が進み、雪融け後の有機栽培試験圃場に施肥してみる準備も整いつつあります。

今年の1月からは、事務所を朝日町産業創造センター（旧送橋小学校）に移して事業を展開しています。

▼連絡先／朝日町雇用創造協議会事務局 ☎85-0415

まちの話題



「 ホームページに写真」の表記があるものについては、町ホームページの「まちの写真館」コーナーで、多くの写真を紹介しています。ぜひご覧ください。

ＪＴＢ東北 クリーンアップキャンペーン 2010 ～地域と環境との交流～ (2月19日／立木地区ほか)



立木地区の高齢者宅の雪かきを支援

旅行代理店「ＪＴＢ東北山形支店」の社会貢献事業として、高齢者宅の雪かきをサポートする無料のツアーが2月19日行われ、仙台市などから約40人が町を訪れました。

活動の場所となったのは、全35世帯のうち半数以上にあたる20世帯が高齢者世帯の立木地区。豪雪に見舞われた今年は雪の後始末が大きな負担となっています。

参加者は4班に分かれて3軒の民家と公民館の排雪作業を実施。日ごろあまり目にすることのない雪の量に最初は驚きの表情を浮かべながらもスコップで雪をかき分け、約1時間半の作業を終える頃には額に大粒の汗を浮かべていました。

仙台市から参加した20代の女性は「以前からボランティアに興味があり、数人の仲間と参加しました。雪は思ったよりも重く、高齢者の苦勞がわかりました。少しでも力になれば幸いです」と息を弾ませていました。

作業終了後は、いもがわ温泉で汗を流したほか、ワイン城を訪れた参加者。作業の達成感とワインも味わい、朝日町での一日を満喫しました。

 ホームページに写真

海の子・山の子交流会「山のつどい」 (2月5日／Asahi自然観ほか)

山の子たちの雪国のもてなしに大満足！

宮城県七ヶ浜町と当町の児童が交流する「海の子・山の子交流会」の「山のつどい」が2月5日行われ、七ヶ浜町立汐見小学校児童ら50人が町を訪れました。

この交流会は平成14年度から毎年開催されているもので、今年で9回目。朝日町(山の子)と七ヶ浜町(海の子)それぞれの児童が風土の異な

る互いの町を行き来することで、日頃できない体験を行うものです。

Asahi自然観でゴムチューブ滑りやかんじき体験など雪遊びをたっぷり楽しんだ海の子たち。昼食には西五百川小の4・5年生が育てたもち米を使ったおこわのおにぎりを味わうなど、山の子たちの心温まる雪国のもてなしに大満足の様子でした。





ホームページに写真

「＝今井優子とともに＝響け未来の風のせて」 ～創遊館 10 周年を記念した町民コンサート～

創遊館の 10 周年を記念した町民コンサート「＝今井優子とともに＝響け未来の風のせて」が 2 月 13 日、創遊館ホールで行われました。

10 年の間に今井さんと関わって来た個人や団体がそれぞれのステージを披露。満員の観客は出演

者の生の歌声や息づかいを間近に感じていました。

【出演者（団体）】今井優子、コーロ・アウローラ、コーロ・リリコ、宮宿小 5・6 年生、朝日中第 2 学年、劇団はなまる、あめっかぜ（敬称略）



光沢感ある黄色・紫・茶色のストールに仕上がる ～西部公民館で草木染めを楽しむ講座～

西部公民館が主催する草木染め体験講座が 2 月 20 日同館で開催され、18 人が参加しました。

草木染めとは文字通り、草木など天然素材の染料で色をつけるもの。この日はキハダの皮、ブドウの皮、コーヒーが用意され、シルクのストールに

好みの色をつけていきました。

約 3 時間の作業で黄色や紫、薄茶などに色づけられた、シルク特有の光沢感を放つストールが完成。参加者は「とても素敵なものに仕上がり、大満足です」と笑みを浮かべていました。



赤ちゃんをだっこ、母親の気分を味わったよ ～次世代のパパ・ママ ボランティア&ふれあい育児体験～

中高生を対象にした「ボランティア&ふれあい育児体験」が 2 月 26 日、子育て支援センターで行われました。

参加者はセンターのガラス磨きやおもちゃの消毒などの奉仕活動を行ったあと「ちょっと早めのパ

パ・ママ体験！」と題した思春期からの健康管理について学習。その後センター利用者の好意で実際に赤ちゃんを胸に抱いてみた参加者。「とても幸せな気分。苦勞して育ててくれた親に感謝したいです」と話していました。



カフェ蔵 ミニワインパーティー「ワイン物語」 地元の食材を使った料理を地元産のワインで味わう

「カフェ蔵」のミニワインパーティーが 2 月 25 日と 26 日行われ、両日ともに満席となる 20 人が参加しました。

この催しは地元の食材を使った料理を地元産のワインで味わってもらおうと、カフェ蔵が初めて企画したもの。ワインは料理ごとに旬朝日町

ワインの白田総務部長がセレクトし、料理の提供に合わせてそれぞれの特徴などを説明しました。

参加者は「町の食文化を満喫できました。ワインにあう手づくりの料理も最高です」と満足げに頬を赤らめて話していました。



ホームページに写真

感謝の気持ちを歌や「よびかけ」で伝える ～町内各小学校で「6 年生を送る会」～

卒業を間近に控えた 3 月 8 日、西五百川小学校の「6 年生を送る会」が同小体育館で行われました。

この会は在校生がお世話になった 6 年生に感謝の気持ちを伝える行事。約 10 年から 15 年ほど前に始まったと言われ、現在は多くの小学校で年

中行事として定着しています。

この日の西五百川小学校では、5 年生が運営を担当し、各学年ごとに歌や「よびかけ」を発表。最後に「ありがとうございました」の言葉を添えて、在校生が 17 人の 6 年生に手作りの色紙を手渡しました。



「あとリエマサト」の「マサト」とは、この剥製のカモシカの名前「せっかくなので、マサトと一緒に…」と笑顔を見せてくれました

「私たちこの春、立木小学校を卒業します」

旧立木小で創作活動 あとりえマサト 田中 敦子さん（右）
川勝 節子さん（左）

▼当初田中さんは立木に住んでいましたね。

田中 平成21年3月まで立木に居住しながら活動してきました。

日々の暮らしや展覧会などで、立木の方々、そして町の皆さんには本当に世話になりました。

川勝 私は平成17年の10月から参加しました。

自分と同じ東北芸工大の卒業生が小学校を拠点に創作活動を始めたという噂を聞いて、軽い気持ちで見学に来たところ、予想以上に雰囲気良かったです。もともと実家は埼玉ですが、芸工大に進学してからは、祖母が暮らす大江町に住んでいたので、距離的にもいいかなと…

▼お二人ともここが創作のヒントになったとか。

田中 立木は夜空がとても素敵なんです。星空

や月明かりが宇宙を感じさせるといふか、宇宙空間に放り出された感じ…。仕事から帰ってくる

と、辺りはいつも真つ暗でしたが、車から降りて空を見上げるのが楽しかったです。

今は作品の約8割が宇宙をテーマにしたもの。立木の空を見なかったら、宇宙を描いていないような気がします。

ちなみに私の作家名「敦木愛子」の「木」は、「立木」の「木」からとったもの。立木にはそれだけ作品制作の原点だと感じています。

川勝 私の場合は「音」ですね。ここで活動していると、人工的な音がなく、鳥や虫の声、川のせせらぎが心地よく耳に入ってきます。

私の専門は金属工芸で作るものはアクセサリーがほとんどでしたが、ここでは音をテーマにしたオブジェも創りました。

▼地域の方との交流もあったと思います。

田中 お茶のみをしたり、野菜をもらったり、朝日川で釣りを教えてもらったり…。そう言えば、ママシもごちそうになりました（笑）。

毎年開催する展覧会で設けたお茶のみの場が地元の方々や来訪者との距離を縮めてくれましたね。人がつながって町全体が見えてきました。

▼今後の活動予定を教えてください。

田中 まずは実家の愛知に帰り、3年以内に海外を目指します。行き先は欧米を予定しています

が、現地の仕事を見つけてから日本を離れるつもりです。最短で5年、理想としては10年の滞在を考えています。

川勝 山形市にある「山形まなび館（旧山形一

小）のスタッフとして、同館に常駐し、館内に設けた工房で引き続き指輪やアクセサリーなどを制作します。興味のある方はぜひおいでください。

▼町の人にメッセージを一言。

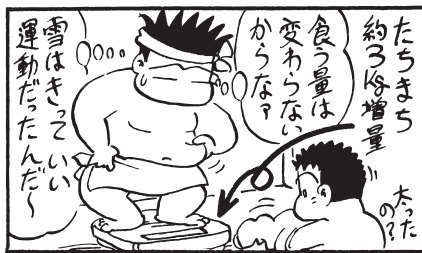
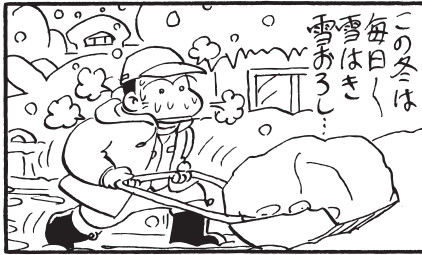
田中 私たちが卒業しても、あとリエマサトや芸工大の学生による「かもしか隊」の活動は続きます。

卒業する者がいれば、入学する者もいる、それが学校です。マサトも複数の人が出入りしながら、末永く活動が続いていくものと思います。

川勝 芸術という、敷居の高い印象を持たれがちですが、決してそうではありません。芸術は実は日常の中にあるものなんです。今後もあとリエマサトを通じて芸術を身近に感じていただければ幸いです。

となりの リンゴさん

(233) ホリイ



【お詫びと訂正】

広報あさひまち 2011 年 2 月号で次の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- ▼訂正箇所 16 頁「わたしの作品」
- ・誤 阿部篤くん (西五百川小4年)
- ・正 阿部篤くん (西五百川小6年)

私が暮らす地区は、少子化の波にもれず、子どもの少ない地区だ。子どもたちの遊び相手はもっぱら兄弟か、地域の大人だ。友達のように駆け寄っていく我が子の頭を撫でて、畑から採れたばかりの作物をくれたり、「お前のトマトだよ、ちゃんと世話してな」と苗を植えてくれたりする方々。「子どもは地域の宝だ」と

私が 3 人目の子どもを妊娠したとき、地区の方に、「また、子どもが増えてありがたい、産んでくれてありがとうね。」と言われたことがあった。「ありがとう」と言われると思っていたいなかった私には、ちよつとくすぐったい言葉だった。



地域の宝

広報委員リレーエッセー 私的あさひまち生活

町広報委員が仕事や趣味、家庭などを通じて垣間見える朝日町の姿や日常の思いを自由に綴ります

言つて可愛がつていただいている子どもたちは本当に幸せだと思つ。

小さな子どもが犠牲になる、胸が苦しくなるような事件報道が後を絶たない背景の一つに、近所付き合いの希薄さも取り沙汰されていたが、朝日町にはそれがない。子どもたちを温かい目で見守り、一緒に育てて下さる地域の方々に私は感謝せずにはいられない。

子どもたちが大人になった時、朝日町という温かい町で育った事は、子どもたちの誇りになると信じていたい。

(クローバー)



宮宿剣道スポ少が設立 30 周年 紅白戦と式典で節目を祝う

宮宿剣道スポ少の設立 30 周年を記念した紅白戦と式典が 2 月 27 日町民体育館などで行われました。

同スポ少は 1981 年に設立。これまで 127 人が卒団し、中学や高校で目覚ましい活躍を見せているほか、現在は数人が指導者として地域に残り、子どもたちと日々竹刀を交えています。

紅白戦には 14 人の団員のほか、およそ 30 歳までの OB・OG ら 30 人が出場。

白熱した試合を繰り広げ、気迫のこもった掛け声を会場に響かせました。

開発センターで行われた記念式典には、関係者ら約 80 人が出席。30 年の歩みを振り返るとともに、団員が減少している中でも今年度は全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会(9 月 20 日/大阪府)に出場するなど、過去最高の成績を収めたことなどが報告され、今後ますますの飛躍を誓いました。

平成22年度 町体育協会表彰式



各競技の大会で活躍した方などを対象にした町体育協会表彰式が2月27日、町生涯学習推進大会の席上行われました。

今年度は19個人、3団体がそれぞれ殊勲賞、優秀賞、功労賞の各賞を受賞。町体育協会の花山忠夫会長から賞状とメダルが授与されました。

□ホームページに写真

◆殊勲賞

▼菅井拓人(東海大山形高3年/大町/陸上)▼今井将真(酒田商高3年/大町/剣道)▼阿部陽祐(酒田商高3年/緑町/剣道)▼星野裕太(米沢中央高3年/宇津野/剣道)▼佐藤陸(山形工高3年/真中/剣道)▼志藤綾子(左沢高3年/川通/剣道)▼富樫幸姫(山形商高3年/助ノ巻/剣道)▼村山弦士(日大山形高3年/常盤/柔道)▼清野嵩悠(山形中央高2年/四ノ沢/スキー)▼今野駿(山形南高2年/大町/バスケット)▼清野真好(山形商高2年/四ノ沢/バスケット)▼白田滉子(山形西高2年/大谷五/新体操)▼柴田明日香(山形工高1年/元町/水球)▼鈴木智美(山形商高1年/常盤/バスケット)▼遠藤幹士(朝日中3年/舟渡/卓球)

◆優秀賞

▼阿部智恵(霞城学園高2年/常盤/卓球)▼宮宿剣道スポーツ少年団(古川哲兵、富

◆功労賞

▼長岡利吉(太郎三/ゲートボール)▼小川澄夫(太郎二/登山)

なお、受賞者の中でも、全国大会で上位入賞を果たした清野嵩悠さん(第22回全国高等学校選抜スキー大会 アルペン男子スラローム 第4位)と柴田明日香さん(第3回全日本ユース水球競技選手権大会 優勝)には鈴木町長より賞詞が授与されています。

あきらめない心

努力の積み重ねこそが

人生の宝

私たち誰もが、そんなに強い人間ではないのかもしれない。ほんのちょっとした一言でくじけそうになることもあるのです。

しかし、あきらめないでがんばる、努力する、このことが最も大切なことです。

何もしないうちから、また努力もしないうちからあきらめる。もしそんなことになってしまったら、それはなんと悲しいことではありませんか。

私たち人間の「行動」の過程には、必ず「動機」というものが存在します。ある「目的」を達成するために「目標」を掲げます。その目標が高ければ高いほど、目標達成の道程には多くの困難が立ちふさがってくるものと往々にしてあります。なぜ私たちはその「目標」を掲げたのか。そこには必ず、「こうありたい」「こうしなければなら

ない」という確固たる「目的」が存在するのです。

簡単にあきらめるわけにはいかない。その目標が高ければ高いほど、最後の最後まで、必死になつてくついでいく。たとえ、どんなにまわり道することになったとしても、あきらめないで、最後まで努力していく。この姿勢、努力こそが、最も重要なことであると思えます。

自分自身に納得のいく生き方。悔いのない生き方。そうした前向きな生き方・人生を常に心に持ち、何事にも立ち向かっていく、そういった勇氣が必要です。

そして、その努力の積み重ねこそが、尊い人生の宝となるのです。

町長 鈴木浩幸

町長歳時記
(63)



■平成23年(2011年)
2月1日～2月28日届出



すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
四ノ沢	清野	琉男	英樹・さやか



おしあわせに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
岡崎	光男	齋藤	文子
(米沢市)		(杉山)	
長岡	暁生	浅岡	春香
(本町)		(宇津野)	
菅井	正貴	鎌田	悦子
(沼向)		(山形市)	
佐竹	翼	渡辺	茜
(常盤)		(大江町)	
志藤	淳基	鈴木	理絵
(大谷六)		(寒河江市)	
長岡	宏明	柴田	みゆき
(常盤)		(四ノ沢)	
長岡	寛	大滝	瑠美
(西町)		(大江町)	



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
水本	高橋 千ヨ	熊次郎
小原	佐藤 みさを	政隆
大町	安藤 千代	和治
大谷三	鈴木 和夫	多美子
真中	鈴木 康子	長兵衛
元町	鈴木 高雄	高敏
西船渡	若月 かつゑ	勝雄
元町	鈴木 輝子	丈男

人口と世帯数

●平成23年2月28日現在

人口	8,051人	(-4)
男	3,991人	(-2)
女	4,060人	(-2)
世帯数	2,517世帯	(±0)

()内 前月比

-----2月中の異動-----

出生	1人	転入	9人
死亡	7人	転出	6人

第1回最上川カヌー探訪 今夏開催予定



3月1日に行われた実行委員会の結成大会

長井市から中山町までの最上川をカヌーで下る「第1回最上川カヌー探訪」の開催に向けた、同実行委員会の結成大会が3月1日創遊館で行われました。

このイベントは、最上川とカヌーによる地域おこしを目的に、NPO「ブナの森（長岡昇代表）」が企画。昨年5月に本大会を想定した「トライアルイベント」を行うなど、これまで下準備を進めてきました。

結成大会には、実行委員会の母体となるNPO「ブナの森」、大江カヌー愛好会、山形カヌークラブの各代表のほか、各種後援団体の代表者、1日目の宿泊地となる上郷地区4区の各区長が出席。30人程度の参加者を想定した企画内容や事故防止策などについて協議が行われたあと、実行委員会の委員長に長岡昇氏、事務局長に大江カヌー愛好会の佐竹久氏を選出。最後に委員会の結成宣言が採択され、本大会に向けた活動が本格的にスタートしました。

詳細は今後ホームページ等で随時紹介。興味のある方はどうぞご覧ください。

▼NPO「ブナの森」 朝日町宮宿 1115 (町公所会館内)

☎ 85-0377 URL <http://bunanomori.org/>

長井市・中山町間約53キロを1泊2日で下る

プロスノーボーダー児珠藍さん

プロスノーボーダーの児珠藍さん（大町）がこのほど行われたPSA-ASIA スノーボードクロス in 白鳥高原（2/25-26 / 岐阜県）で準優勝を果たしました。

2006年に行われたトリノオリンピックの「スノーボードクロス」を見て、競技に興味を持ったという児珠さん。競技を始めたのはその翌年ですが、持ち前の身体能力の高さと努力でメキメキと力をつけ、昨年の全日本スノーボード選手権スノーボードクロス競技で準優勝、競技開始からなんと3年目にしてプロ資格を取得しました。

「目標はオリンピック出場」ときっぱり。そんな児珠さんの活躍に今後も注目です。



「目標はオリンピック出場」

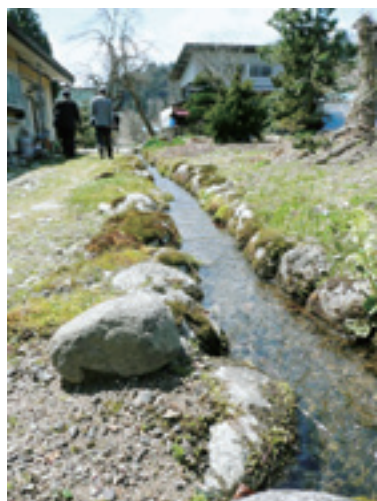
わたしの作品

ー第52回こども県展 入選作品ー



「青空の鏡」

佐藤 真澄 さん (朝日中2年/助ノ巻)



観光協会だより

旅のココロ

by 町観光協会
観光振興推進員
亀井秀介

美しく、やさしい朝日町の春

厳しかったこの冬も、ようやく春の
気配が感じられるようになりました。
思えば観光振興推進員として朝日町へ
やって来たのは、2年前のこの季節…。

春は山間の里、朝日町が一番輝く時。
山桜が舞い、雅楽の調べが響き渡る大
沼浮島稲荷神社の例大祭…。鳥たちが
羽を休める、ちょっと温んだ五百川峡

谷での川下り…。満開の白いりんごの
花の下でのお花見…。

そして春はステキな笑顔が町中にあ
ふれる季節…。皆さんのあたたかいコ
コロに感謝して…。

▼町観光協会「あさひ旅のココロ館」

☎ 0237-67-2134

URL <http://asahimachi-kanko.jp/>

春夏秋冬

編集後記

やるべき時にやること

それが大切です

発売前後のこの頃、自分が言葉の
意味を理解していたとは到底思え
ません。どんな文章を書いていた
のか、我ながら疑問に思います。
しかし、学生時代に理解できな
かったり、役に立たなくても、社
会に出て活きる知識や体験は意外
と多いものです。大切なのは勉強
すべき時に勉強したり、何かやる
べき時にしっかりとそれをやり遂
げる。そうした時期に不正や
損をしたとしても、結局は自分が
損をするだけだと思います。

佐久間 淳

大学入試で携帯電話を使つた前
代未聞のキャンニング事件。一方、
大学では昨今、ネット上にある他
人の文章を無断で引用する「コピ
ペ（コピー&ペースト）論文」が問
題になっているようですが、これ
らはいずれも「情報化」の進展が
生んだ、負の産物と言えそうです。
この「情報化」が急速に進んだ
90年代半ば当時、高校生だった私。
大学入試の小論文の例題に、この
言葉がよく登場していたことを覚
えています。ウインドウズ95の